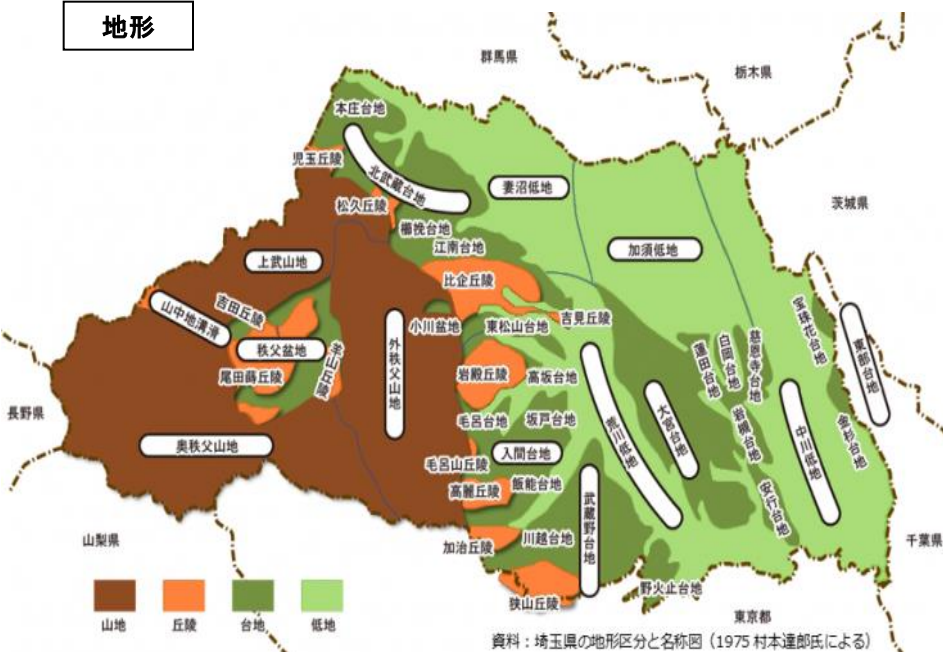


1 現状

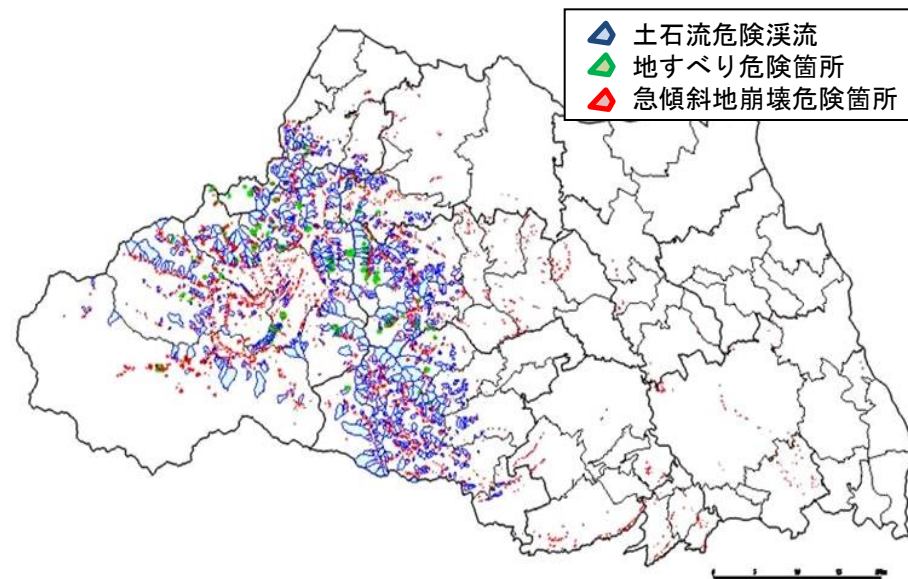
◆地形・地質

- 外秩父山地の東側に沿って南北に走る八王子構造線により、東西で地形・地質が大きく異なっている。
- 西部が山地・丘陵地、県東部が台地・低地となっている。
- 山地の地質は古生層、中生層、第三紀層などで構成され、秩父盆地の荒川沿いに地すべり地形が多く分布している。
- 土砂災害危険箇所は県西部に多いが、県東部の台地周縁にも危険箇所が分布している。
- 県央の丘陵・台地には関東ロームが厚く堆積し、東部の低地は未固結の礫・砂・粘土が多い。

地形



土砂災害危険箇所の分布



埼玉県のと砂災害対策における現状と課題

1 現状

◆近年の土砂災害発生状況

	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	合計	平均
埼玉県	1	0	1	5	0	1	1	7	6	1	23	2.3
全国	966	695	1,058	1,128	1,422	838	941	1,184	788	1,492	10,511	1,051

◆人的被害のあった土砂災害

○明治43年(1910) 死者・行方不明者347名

○昭和13年(1938) 死者74名

○昭和22年(1947) 死者7名



埼玉県の土砂災害対策における現状と課題

1 現状

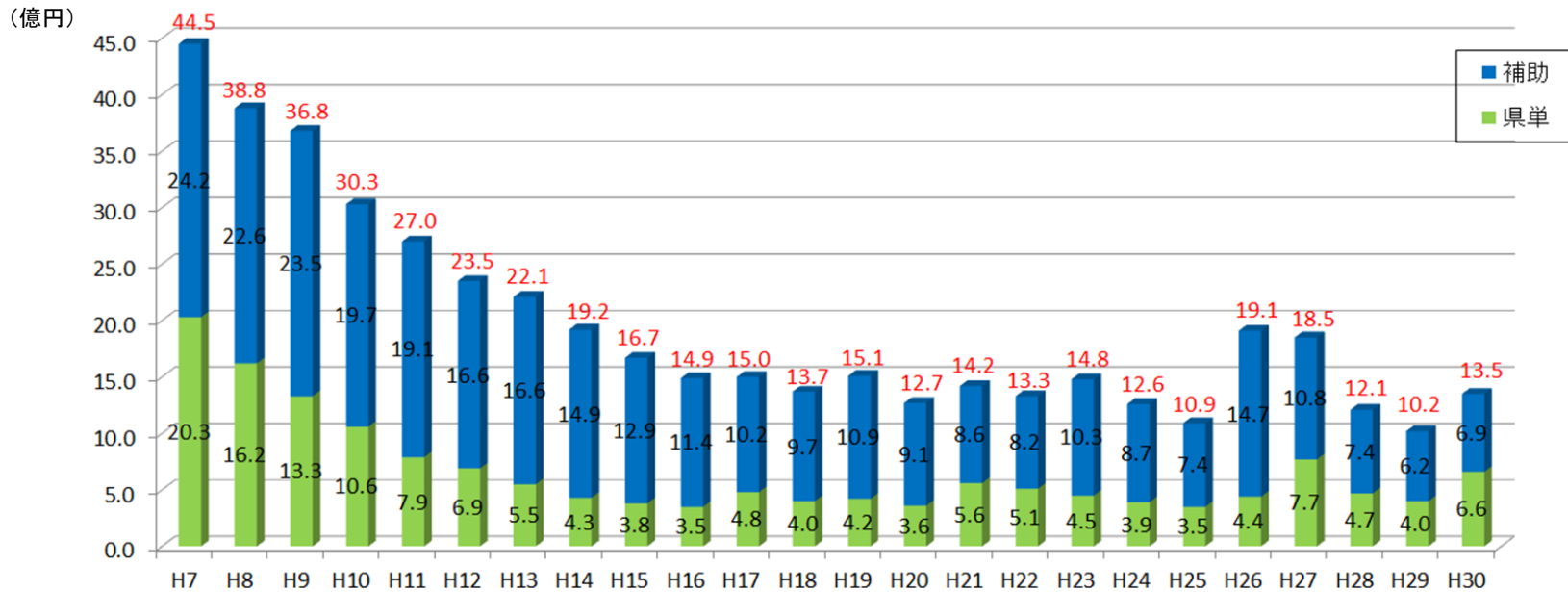
◆土砂災害防止施設の整備状況

○危険箇所4,219箇所のランク I (1,440箇所)を要整備箇所としている。

	土石流	地すべり	急傾斜	計
危険箇所	1,202	110	2,907	4,219
要整備箇所	585	110	745	1,440
概成箇所	53	16	121	190
整備率 (%)	9.1	14.5	16.2	13.2



◆砂防事業の予算推移



埼玉県の土砂災害対策における現状と課題

1 現状

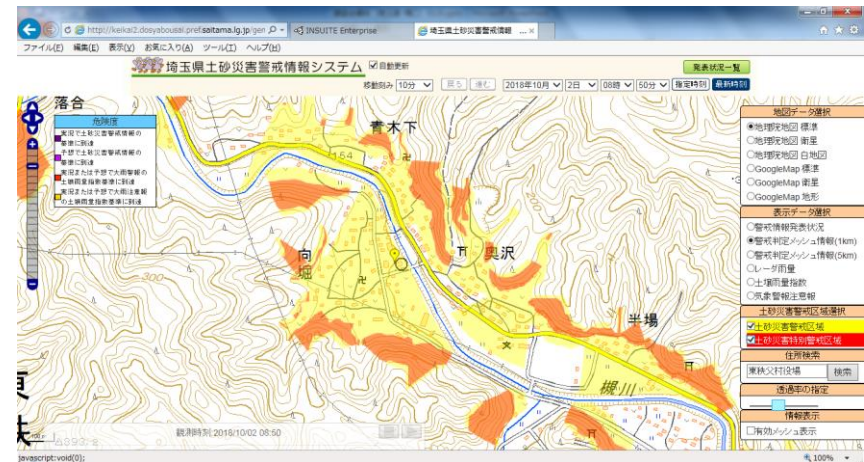
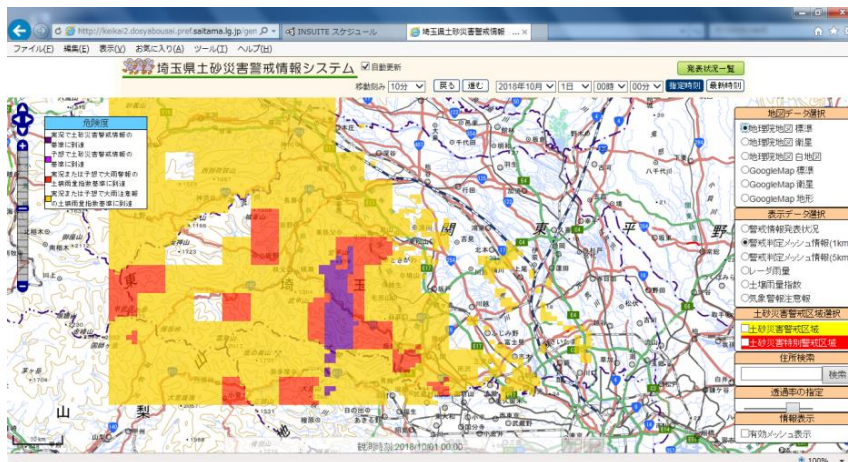
◆区域指定等の状況

- 土砂災害警戒区域(イエロー)は99.9%、土砂災害特別警戒区域(レッド)は92.3%で区域指定が完了。
- 区域指定後のハザードマップは、87.3%で作成済み。
- レッド区域の特定開発行為に関する相談が増えている。

	区域数	面積 (ha)
砂防指定地	934	4912.31
地すべり防止区域	23	363.78
急傾斜地崩壊危険区域	92	186.25
土砂災害警戒区域 (イエロー)	5,225	—
土砂災害特別警戒区域 (レッド)	4,369	—

◆土砂災害警戒情報の提供状況

- 平成20年から現在までに23回発表。平成30年は2回発表。
- 発表基準(CL)を見直し災害捕捉率を向上させるとともに、土砂災害警戒情報システムも改善。



埼玉県のと砂災害対策における現状と課題

2 課題

◆施設整備の対象箇所

- 限られた財源の中での選択と集中
- 埼玉県の土地利用状況等を踏まえた整備のあり方

◆新たなリスクも考慮した施設設計

- より確実に流木を補足できる土石流対策施設
- 計画規模を超える大雨への対応

◆老朽化した施設の維持管理

- 老朽化した施設の長寿命化による維持管理費の平準化
- 良好な景観を生み出している歴史的砂防施設の改築方法

◆警戒避難の促進や災害即応力

- 実効性のあるハザードマップや地区防災計画
- 災害発生時における専門家等との連携

透過型砂防堰堤の捕捉効果（国土交通省砂防部HPより）

災害発生日：平成30年7月6日

おのがわ
堰堤名：小野川堰堤

堰堤形式：透過型砂防堰堤

捕捉状況：土石流・流木捕捉量
約 8,000m³



土石流発生後

土石流発生前



七重川／ときがわ町大野地内

